

最新の口腔がん検診

口の中の病気を早期発見のために最新の細胞診検査を!!

— 液状細胞診 —

「精度向上」「検出率向上」「標準化」「簡便」がテーマです。

* 口腔内における細胞診検査は、歯科医院における検査からがん検診への応用がなされています。簡便で、苦痛を伴わない細胞診検査は、今後注目される重要な検査法の一つと考えています。

* 従来の細胞診は、採取器具で採取した細胞を直接スライドガラスに塗抹するいわゆる直接塗抹法です。しかし、細胞の重なりや、乾燥などにより細胞所見がわかりづらい側面を持ちます。

* そこで**液状細胞診**を使用することにより細胞の乾燥をなくし、さらに採取した細胞すべてを回収することで精度の高い標本を簡便に作製することが可能となります。

液状細胞診による標本の特徴とメリット

●精度が向上します。

従来法よりも細胞の乾燥、重なりが少なくなり、異型細胞の検出が容易です。

●採取細胞が100%回収されます。

採取器具を固定液で洗浄することにより、採取器具にある細胞が固定液中に保存されます。

●採取方法の作業標準化が可能。

採取現場では、固定液に採取器具を入れるだけであり、細胞の乾燥変性・固定不良を防ぐことができます。検査現場への標準的な標本作製を依頼することが可能です。

●液状固定された細胞は長期間保存可能です。

確認のための標本の再作製が可能です。



歯間ブラシ等で口腔内
病変部を擦過

器具を固定液の入ったバ
イアル内で洗浄⇒細胞を
回収



A)



B)

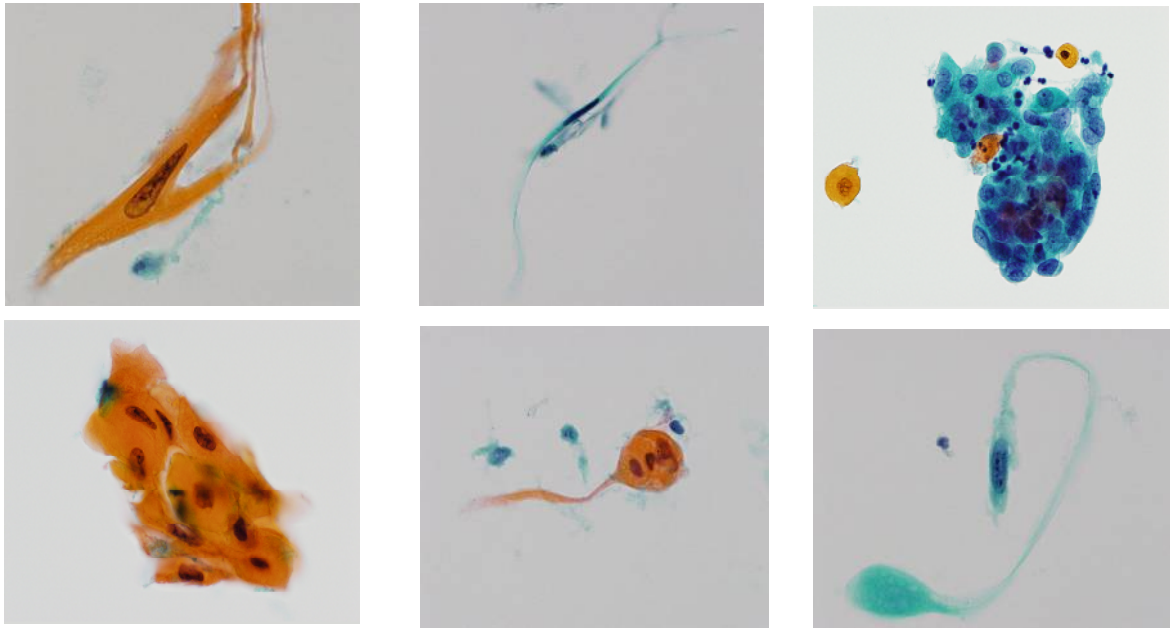


検査室もしくは検査センター
(弊社では2種類のLBCに
対応しています。)

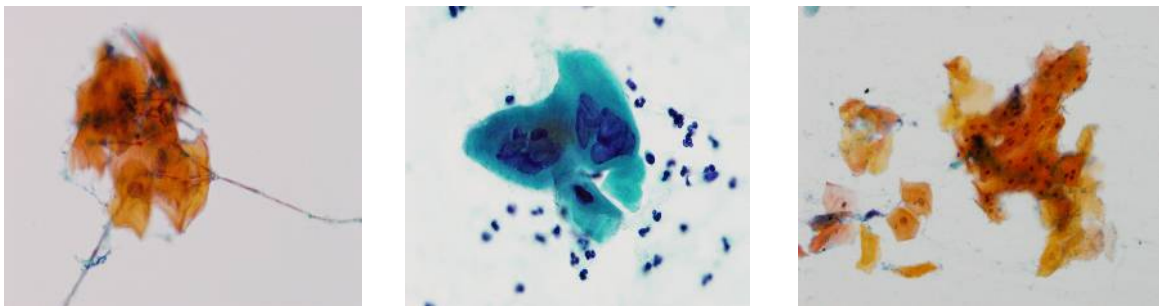
■ 口腔細胞診の細胞像 ■

(液状化細胞診)

★口腔粘膜擦過材料による細胞像(悪性像:扁平上皮癌)



★口腔粘膜擦過材料による細胞像(非腫瘍性病変)



真菌(カンジダ)

ウイルス(ヘルペス)

臨床的白板症(過角化細胞)

写真は東京歯科大学市川総合病院田中先生のデータによるものです。

結果報告様式

弊社専用報告書にて報告。
判定はCLASS分類および3分類(陰性・疑陽性・陽性)どちらも使用可能です。

検査要項

項目コード	検査項目名	検査材料	保存方法	検査方法	基準値	実施料 判断料区分	所要日数	備考
48	口腔細胞診検査	LBC用採取液	室温	顕微鏡的判定	陰性	190点 N004	5~7日	必ず指定容器を使用